

## 1 社会・治安情勢

当国では在留邦人が多数居住するルサカ市を取り囲むようにコンパウンド（貧困層地区）が存在し、殺人事件などの凶悪犯罪が発生しやすい傾向にある。また、4月にはザンビアの最大野党である政治団体UPNDの党首が反逆罪で逮捕され、現在も収監及び裁判中である。それに伴い、ザンビア各地において野党支援者によるデモが頻発しており、警察が鎮圧を繰り返している。またこれに伴い、最近では、**kafue・lusaka** 高圧送電鉄塔の破壊（6月24日）やルサカ市マーケットの火災（7月4日）のように悪質な破壊行為も発生しており、これらを野党支援者の犯行と見る向きもある。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）在留邦人が多数居住し比較的安全とされているルサカ市においても銃器を使用した複数犯による住居侵入強盗、車両強盗、路上強盗が断続的に発生しており、特に、夕方から深夜にかけての犯行が多い傾向である。また、不定期ではあるが儀式殺人も起き、凶悪犯罪が減少する傾向はない。

### （2）邦人被害事案

ア 6月初旬、リビングストーンにおいて旅行中の邦人が寝台特急の一等客室で就寝中に賊に侵入され、パスポートの入ったバックを盗まれる事案が発生。邦人に怪我は無かった。

イ 6月中旬、仕事場から車で帰宅途中の在留邦人が脇道から大通りに進入した際、スピード超過による車に後方から追突された。在留邦人に怪我は無かった。

### （3）邦人以外の被害事案

ア 4月4日、ザンビアの南部州 **Choma** において労働者の宿泊施設をターゲットとして強盗が行われた。逮捕された賊は全員 **Choma** のコンパウンド（貧困層地区）の出身者である。賊達は19時から22時の間に犯行に及び、無作為にひったくり等を繰り返した。なお、**Choma** はJICA関係者や、邦人の個人商店などもあり注視する事案である。

イ 5月18日、**Lusaka** にある **Zingalume** コンパウンドにて儀式殺人が行われた。被害者は身元不明の男性で30歳から35歳くらい。体内から胃、そして頭部から右耳が切り落とされていた。なお、当地区の近くには邦人も在留しており、昨年だけでも当地区から凶悪犯罪による逮捕者が4人出ている。

ウ 5月24日、第二の首都と言われる **Kitwe** にて中国人が武装した賊6人に待ち伏せされ、現金を強奪される事案が発生した。逮捕された賊は今回の強盗以外にも二つの事件に関与している。最も重要なのは、これらのケースにおいて賊は被害者が現地警察を伴っていたにも関わらず、犯行を強行しているという事である。首都である **Lusaka** にて同様のハイリスク、ハイリターンを狙った襲撃がいつ起こってもおかしくはない。

- 3 テロ・爆弾事件発生状況  
当該事件の発生は認知していない。
- 4 誘拐・脅迫事件発生状況  
当該事件の発生は認知していない。
- 5 日本企業の安全に関する諸問題  
関連情報なし